

第31回大会プログラム

大会テーマ：日本のソーシャルワーク実践・理論の本質を探る
—専門職（プロフェッション）としてのソーシャルワーク再考—

会 期 2014年6月21日（土）～22日（日）
会 場 日本福祉大学名古屋キャンパス

6月21日（土）：第1日目

学会長挨拶

大会長挨拶

基調講演：ソーシャルワークにおける援助論の歴史とその継承

岡本民夫（同志社大学名誉教授，日本ソーシャルワーカー協会会長）

大会校企画シンポジウム：日本のソーシャルワーク実践・理論の継承と創造的発展

コーディネーター：野口 定久（日本福祉大学）
総括討論者：野村 豊子（日本福祉大学）
シンポジスト：児島美都子（日本福祉大学名誉教授）
川田 誉音（中部学院大学）
大友 信勝（中部学院大学）
伊藤 葉子（中京大学）
山辺 朗子（龍谷大学）
山田壮志郎（日本福祉大学）

学会総会

情報交換会

6月22日（日）：第2日目

学会企画シンポジウム：ソーシャルワークマインドとソーシャルワーカー像再考

コーディネーター：大島 巖（日本社会事業大学）
高橋 信行（鹿児島国際大学）
シンポジスト：空閑 浩人（同志社大学）
保正 友子（立正大学）
鶴田 啓洋（やどかりサポート鹿児島）
前山 憲一（半田市社会福祉協議会）

自由研究発表

第1会場

座長：小西加保留（関西学院大学）・北村育子（日本福祉大学）

報告1：介護職員が「ケア」の概念を理解する意義と「ケア」の概念の教育、研修方法に関する研究—A 介護老人福祉施設介護職員に実施した研修プログラムを通して—

種村 征子（関西大学）

報告2：若者の早期支援を目的とした複合的支援に関する研究—“若者と家族のリカバリープログラム”実施からの考察—

藤島 薫（東京福祉大学）

報告3：ハイリスク新生児への医療ソーシャルワーク実践モデル開発—ハイリスク新生児への医療ソーシャルワークナビシステム—

宮崎 清恵（神戸学院大学）

報告4：交互作用モデルによるソーシャルワーク・アセスメントの枠組み—ライフモデル・エコマップ・PIE マニュアルの探索をとおして—

藤園 秀信（中部学院大学）

報告5：子ども虐待対応において実践家が捉えた「専門職間連携」概念に地域特性が与える影響について

実方 由佳（国立成育医療研究センター）

報告6：独立型社会福祉士の開業システムの構築をめぐる現状と課題

小柴住まゆ子（椋山女学園大学）

第2会場

座長：中村佐織（京都府立大学）・大谷京子（日本福祉大学）

報告1：教育現場におけるソーシャルワーク実践の限界と可能性—教員と児童・保護者の関係そのものに着目して—

齊藤 友子（別府溝部学園短期大学）

報告2：精神障害者のストレンクスを用いた地域生活定着支援の意義—ストレンクス視点からの事例分析をとおして—

山東 綾乃（京都府立大学大学院）

報告3：専門性を意識化するための振り返りシートの開発—クライアントのタイプと問題解決の関連に関する試案—

柳田 千尋（JCHO 東京山手メディカルセンター）

報告4：ソーシャルワークアセスメントスキル—エキスパート面接ロールプレイからの抽出—

大谷 京子（日本福祉大学）

報告5：定期巡回・随時対応サービスの利用実態に関する研究—A 市の実態調査を踏まえた在宅選択の可能性—

日比野絹子（日本福祉大学大学院）

ワークショップ：韓国社会福祉館における SW 事例管理の実際—多問題家族への継続的支援—

コーディネーター：野口 定久（日本福祉大学）

野口 典子（中京大学）

参加者：チェ ソンヒ (韓国聖書大学教授)
キム ヒス (韓国聖書大学副教授)
シン ヒキョン (ソンパ総合社会福祉館館長)
キム ウンヨン (ソンパ総合社会福祉館)
シン ヨンザ (ウォルゲ総合社会福祉館館長)
ジョン ジュヨン (ウォルゲ総合社会福祉館事例管理チーム)
通訳者：キム ウォンギョン (日本福祉大学地域ケア研究推進センター研究員)
イ ソンハン (日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科博士課程)